

第5次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物
The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

ヒヤン

Sinomicrurus japonicus (Günther, 1868)

戸田守（琉球大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会 爬虫類・両生類分科会



令和8（2026）年3月



特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：戸田守，2026. ヒャン. 環境省（編）第5次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 265-269.

Citation: Toda, M., 2026. *Sinomicrurus japonicus* (Günther, 1868). In: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 265-269.

ヒヤン

Sinomicrurus japonicus (Günther, 1868)

カテゴリー判定結果 準絶滅危惧 (NT) ②				
基準 A: —	基準 B: VU 未満	基準 C: —	基準 D: —	基準 E: —
生息状況の推移から見て、種の存続への圧迫が強まっていると判断されるもの。 具体的には、分布域の一部において、次の傾向が顕著であり、今後さらに進行するおそれがあるもの。 ②生息条件が悪化している。 【判断理由】 本種が好む環境特性は十分にわかっていないが、比較的自然度の高い環境で見かけることが多いことから、奄美大島や徳之島における農地開発や林道の敷設に伴う森林伐採などの森林環境の改変は本種の生息にとってマイナスになると考えられる。もともと数が多い種でないことはほぼ明らかであり、生息環境の悪化が本種に与える影響は小さくないと考えられる。				
評価分科会： 爬虫類・両生類分科会				

概要

奄美諸島の固有種。橙褐色の地に黒色のストライプと黒い環帯を併せ持つ美しいヘビで、山地から丘陵地の森林域に生息する。徳之島の集団は体色パターンがハイに酷似している。もともと発見事例に限られることから個体数は多くないと考えられるが、森林環境の減少にともない個体数はさらに減少していると思われる。奄美大島と徳之島以外の島嶼では目撃事例が少なく、生息実態はよくわかっていない。

基礎情報

【形態】

頭胴長はオスで 282～502 mm、メスで 372～445 mm。体鱗は滑らかで、胴のほぼ全域で 13 列に並ぶ。腹板数はオスで 192～211 枚、メスでは 201～217 枚。尾下板は 27～31 対。胴部背面の地色は橙褐色で小型の個体は赤みが強いことが多い。黒縦条は、原則、背中部のものが一番太いが、その幅は 1 鱗幅を超えない。体側の黒縦条はしばしば非常に細く、無い場合もある。黒縦条と直行する黒い環帯が頸部から尾の先端にかけて 13～19 本ある。環帯の幅は背側で 3 体鱗長、腹側でおよそ 2 腹板長あり、白く縁取られることはない。徳之島のものは全くパターンが異なり、沖縄諸島のハイに酷似している。

【生活史】

爬虫類食と考えられており、餌としてブラーミニメクラヘビ、バーバートカゲなどが報告されている。ハイに比べて日中に見かけることが多い。一腹卵数は 2～4 個で、6 月に産み落とされた卵から頭胴長 145 mm の幼体が 8 月初旬に孵ったという記録がある。

【生息環境】

山地および丘陵地の森林に生息する。暗い森林の林床や河川の近くなど湿潤な環境で見かけることが多いが、ガレ場などでも見かけるという情報もある。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】森林 【陸域_平地部】森林
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域, (2) 里地里山・田園地域, (7) 島嶼地域

【分布域】

奄美諸島の固有種で、奄美大島、加計呂麻島、請島、与路島、徳之島に分布する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

各島で森林環境が減少していることから、それに伴って分布範囲は狭まっていると考えられる。奄美大島と徳之島以外の島々ではそもそも目撃例が非常に限られていて、生息状況はよくわかっていない。

【生息地の現況】

森林環境は減っており、それに伴って生息地面積は狭まっていると思われる。

【個体数の現況】

もともと発見頻度は高くないため、個体数の変動の評価は容易でないが、生息適地の減少により、個体数も減少しているものと考えられる。

存続を脅かす要因

農地開発や林道の敷設・整備に伴う生息適地の縮小が存続を脅かす主要因と考えられ

る。奄美大島では、マングースによる捕食の影響も懸念されていたが、2024年に根絶宣言が出され、マングース・フリーの状態となった。本種への影響は検証されていないため、今後の動向を注視する必要がある。

要因の区分：	(過去)	森林伐採，圃場整備，捕食（外来種による）
	(現在)	森林伐採，圃場整備

特記事項

徳之島の集団はハイと酷似しており、その進化的な意味に興味がもたれる。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第4次 2020:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第4次 2019:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第4次 2018:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第4次 2017:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第4次 2015:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第4次:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第3次:	ヒャン	<i>Sinomicrurus japonicus japonicus</i>	NT
第2次:	ヒャン	<i>Hemibungarus japonicus japonicus</i>	NT
第1次:	ヒャン	<i>Calliophis japonicus</i>	R

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和6年度末時点）

【鹿児島県】準絶滅危惧

保護に係る法令指定状況（令和7年度末時点）

指定なし

参考文献

- Kaito, T., H. Ota, and M. Toda, 2017. The evolutionary history and taxonomic reevaluation of the Japanese coral snake, *Sinomicrurus japonicus* (Serpentes, Elapidae), endemic to the Ryukyu Archipelago, Japan, by use of molecular and morphological analyses. J. Zool. Syst. Evol. Res., 55(2): 156–166.
- 日本爬虫両棲類学会（編），2021．新日本両生爬虫類図鑑．サンライズ出版，彦根．232pp.

- 太田英利・岡田滋. 2003. 爬虫類・両生類. 鹿児島県環境生活部環境保護課（編），鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物，動物編. 鹿児島県レッドデータブック，pp. 82-116. 財団法人鹿児島県環境技術協会，鹿児島.
- Ota, H., A. Ito, and H. C. Lin, 1999. Systematic review of the elapid snakes allied to *Hemibungarus japonicus* (Günther, 1868) in the East Asian islands with description of a new subspecies from the central Ryukyus, Japan. *J. Herpetol.*, 33: 675—687.
- Smart, U, M. J. Ingrasci, G. C. Sarker, H. Lalremsanga, R. W. Murphy, H. Ota, M-C. Tu, Y. Shouche, N. L. Orlov, and E. N. Smith. 2021. A comprehensive appraisal of evolutionary diversity in venomous Asian coralsnakes of the genus *Sinomicrurus* (Serpentes: Elapidae) using Bayesian coalescent inference and supervised machine learning. *J. Zool. Syst. Evol. Res.*, 59(8): 2212–2277.

アセスメントサマリー (Assessment summary)

Sinomicrurus japonicus has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Sinomicrurus japonicus* is listed as NT under criteria ②.

The species that is considered to be under increasing pressure for survival, as indicated by habitat status trends, specifically with the following notable tendencies in parts of its distribution that are likely to continue.

②Habitat conditions are deteriorating.

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】 Forest 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】 Forest
Threat types:	Logging and wood harvesting, Field preparation
Law designation status for conservation	—



©羽部優衣

執筆者: 戸田守（琉球大学）
Author: Mamoru Toda

公表年月：2026 年 3 月